

桜美林大学

博物館学芸員課程 履修の手引き

2026年度版（2025年度以降入学生用）



展示の実務と解説



カメラと写真の基本



博物館学資料の調査と研究



作ってみよう みんなの展示



モノから資料へ



展示パネルの作成



2026.4

桜美林大学 博物館学芸員課程

1 学芸員になるために

①博物館とは

博物館とは、**資料を収集・保存し、調査・研究した成果を、広く一般に公開する施設**のことです。博物館の特徴は、①実物資料があること、②「学芸員」という専門的職員がいること、③継続的に一般公開していることで、これが博物館と他の施設とを分ける条件になります。

この条件に当てはめると、博物館は歴史、民俗、考古、美術、自然史、科学技術など、**さまざまな分野を含む非常に幅広い概念**になり、美術館やプラネタリウム、民家園、文学館、記念館なども博物館の仲間となります。また、「実物資料」には「生きた動物や植物」も含まれるので、水族館、動物園、植物園なども博物館の一種です。

②学芸員の仕事

学芸員とは、**博物館の専門的職員**のことを指します。博物館に勤務して、資料の収集や調査研究、展示などの**専門的な業務**を行います。

学芸員には、博物館の分野に合わせた**専門分野の知識**も必要になりますし、展示や保存、分類といった技術的な力量も必要です。学芸員はそれらに応じた能力を兼ね備えておかなければなりません。

③桜美林大学の博物館学芸員課程

学芸員として働くためには、それぞれの分野における高度な専門知識とともに、**国家資格**である**学芸員資格**を取得する必要があります。博物館学芸員課程は、その資格を取得するためのカリキュラムです。

桜美林大学では、1995年に博物館学芸員課程が設置され、全学に向けて開講されています。すべての学群の学生が自由に履修することができます。学芸員になるのは狭き門ですが、これまでに1,000名以上の学芸員有資格者を輩出し、博物館などの現場で活躍している卒業生も約30名に上ります。

本学の博物館学芸員課程では、激しく変化しつつある現代社会における博物館の地位と役割をしっかりと見据え、その中でリーダーシップを発揮して新しい博物館活動を推進していけるような、積極的で創造的な学芸員資質の教育を目指しています。

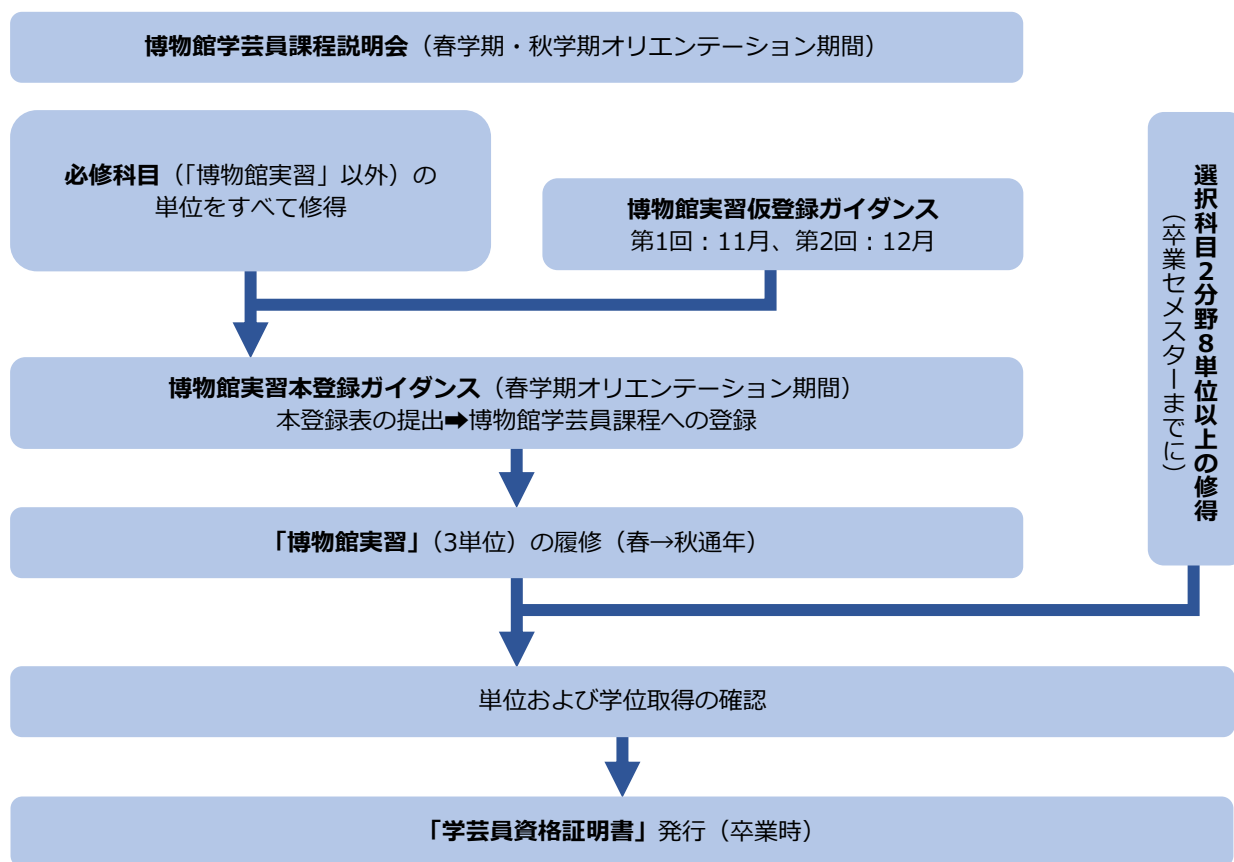
④就職との関係

学芸員の資格を生かして、博物館や文化財にかかわる職業に就くケースがあります。ほかにも次のような職種で、学芸員課程で培った知識や経験を十分に活かすことができると思われます。

文化振興・芸術振興	▶ 地方自治体の文化・芸術振興セクション、文化財保護・自治体史編纂セクション ▶ 民間企業におけるメセナ関連セクション、ギャラリーや企業の資料室など ▶ アート系NPO
ディスプレイ・展示	▶ 博物館、博覧会、商業施設などにおけるディスプレイを専門とする民間企業 ▶ 文化財輸送・梱包業者 ▶ 建築・空間デザイン関連業者
観光・地域振興	▶ 地方自治体におけるまちづくり・地域振興セクション ▶ まちづくり系NPO、自然保護系NPO
教育	▶ 図書館、公文書館などの地方自治体における生涯学習施設 ▶ 民間教育産業 ▶ (教職免許があれば) 教員
マスコミ・印刷	▶ 出版社 (特に文化関連の編集者) ▶ イベント企画、マーケティング関連業者

2 博物館学芸員課程の履修の方法

① 資格取得までの流れ



② 学芸員資格取得のために必要な科目と単位数

博物館学芸員に関する科目として「博物館法施行規則」(文部科学省令)により定められた**必修科目を19単位以上**修得することが定められていますが、本学の課程では、次の通りの単位修得が必要です。

必修科目 (9科目19単位)

+

選択科目 (5分野のうち2分野以上にわたり、それぞれ4単位以上・計8単位以上)

□ 必修科目

本学開設授業科目	単位	履修年次	科目の開講学群	先修条件
生涯学習概論	2	1	リベラルアーツ学群	
博物館概論	2	1	リベラルアーツ学群	
博物館教育論	2	1	リベラルアーツ学群	
博物館経営論	2	2	リベラルアーツ学群	博物館概論
博物館資料論	2	2	リベラルアーツ学群	博物館概論
博物館資料保存論	2	2	リベラルアーツ学群	博物館概論
博物館展示論	2	2	リベラルアーツ学群	博物館概論
博物館情報・メディア論	2	2	リベラルアーツ学群	博物館概論
博物館実習	3	3	リベラルアーツ学群	他のすべての必修科目

□選択科目

本学の独自のカリキュラムとして、次Ⅰ～Ⅴの5分野のうちから**2分野以上**にわたり、**それぞれの分野から4単位以上**、**計8単位以上**の修得が必要です。充実した専門知識は博物館学芸員として不可欠のものであるため、各分野ともできるだけ多く修得することが望まれます。

選択科目は、入学年度によって若干異なります。詳しくはウェブ上の「履修ガイド」を参照するか、資格教職課にお問い合わせください。

◆2025年度以降入学生（2024年度以前入学生の選択科目はお問い合わせください）

分野	授業科目名	単位	履修年次	科目の開講学群	先修条件
Ⅰ 民俗／民族学 分野	人文地理学	2	1	リベラルアーツ学群	
	文化地理学	2	2	リベラルアーツ学群	
	日本民俗学	2	2	リベラルアーツ学群	
	文化人類学概論	2	1	リベラルアーツ学群	
	文化人類学の歴史と方法	2	1	リベラルアーツ学群	
	宗教人類学A	2	2	リベラルアーツ学群	
	宗教人類学B	2	2	リベラルアーツ学群	
Ⅱ 歴史／文化史 分野	中国文化概論	2	1	リベラルアーツ学群	
	日本考古学	2	2	リベラルアーツ学群	
	韓国文化論	2	2	リベラルアーツ学群	
	中国文化論	4	2	リベラルアーツ学群	
	日本の歴史ⅠA	2	2	リベラルアーツ学群	
	日本の歴史ⅠB	2	2	リベラルアーツ学群	
	日本の歴史ⅡA	2	2	リベラルアーツ学群	
	日本の歴史ⅡB	2	2	リベラルアーツ学群	
	人文科学B（日本文化論）	2	2	芸術文化学群	
Ⅲ 美術／美術史 分野	日本芸術論	2	1	リベラルアーツ学群	
	コミュニティ・アート	2	2	リベラルアーツ学群	
	アートマネジメント論（ビジュアル・アーツ）	2	3	芸術文化学群	
	アートマネジメント論（演劇・ダンス）	2	3	芸術文化学群	
	西洋美術史A	2	1	芸術文化学群	
	西洋美術史B	2	1	芸術文化学群	
	日本美術史A	2	1	芸術文化学群	
	日本美術史B	2	1	芸術文化学群	
	東洋美術史A	2	1	芸術文化学群	
	東洋美術史B	2	1	芸術文化学群	
	現代美術論A	2	3	芸術文化学群	
	現代美術論B	2	3	芸術文化学群	
Ⅳ 生物分野	植物学A	2	2	リベラルアーツ学群	生物学概論
	植物学B	2	2	リベラルアーツ学群	生物学概論
	動物学A	2	2	リベラルアーツ学群	生物学概論
	動物学B	2	2	リベラルアーツ学群	生物学概論
	生態学A	2	2	リベラルアーツ学群	生物学概論
	生態学B	2	2	リベラルアーツ学群	生物学概論
	神経生理学	2	3	リベラルアーツ学群	生物学概論
	動物生理学	2	3	リベラルアーツ学群	生物学概論
	代謝生理学	2	3	リベラルアーツ学群	生物学概論
	系統進化学	2	3	リベラルアーツ学群	生物学概論
	Ⅴ 地学分野	地球物理学	2	3	リベラルアーツ学群
気象学		2	2	リベラルアーツ学群	物理学概論
環境学特別講義（気象と環境）		2	2	リベラルアーツ学群	
環境学特別講義（天気予報の科学）		2	2	リベラルアーツ学群	
天文学		2	3	リベラルアーツ学群	物理学概論
地質学		2	2	リベラルアーツ学群	
古生物学		2	3	リベラルアーツ学群	生物学概論

③ 課程登録

「博物館実習」(3単位)以外の必修科目の単位の修得が終わり、「博物館実習」を履修するためには、博物館学芸員課程の他のすべての必修科目の単位を修得し、課程登録をすることが必要です。

課程登録は、実習を希望する前年度の秋学期中に行われる2回のガイダンスに出席して仮登録を行います。その上で、実習年度4月に課程登録費(3万円)を納入し、「博物館実習」の履修登録を行い本登録となります。

④ 履修のヒントと注意

- 1年次に先修科目「博物館概論」と、「博物館教育論」「生涯学習概論」を履修しておくとい良いでしょう。
- 町田キャンパス以外のキャンパスに通う学生は、町田キャンパスで開講される所定の科目を履修する必要があります。時間割の関係上、4年間でも資格取得が困難な場合があるため、ご注意下さい。

3 博物館実習の紹介

① 概要

本学の「博物館実習」は、学内実習プログラム(A群・B群)および館務実習(C群)を組み合わせたポイント制で履修します。下記A、B、C群から各1ポイント以上、合計7ポイント以上の取得をもって3単位の修得とします。

なお、「博物館実習」(通年授業)の履修単位(3単位)は**秋学期に加算**されます。

	実習プログラム		ポイント	履修方法
A群	I	博物館実習入門	1	春学期オリエンテーション期間中に2回の集中講義(必修)
	II	博物館見学実習	各0.5	学内実習プログラムより選択
B群	III	視聴覚教育技術実習	各1	学内実習プログラムより選択
	IV	調査研究実習	各1	学内実習プログラムより選択
	V	博物館資料収集・整理実習	各1	学内実習プログラムより選択
	VI	博物館教育普及活動実習	各1	学内実習プログラムより選択
	VII	展示実習	各1	学内実習プログラムより選択
	VIII	バリアフリー実習	各1	学内実習プログラムより選択
C群	IX	博物館館務実習	1~3	博物館園での委託館務実習(1~4日間:1ポイント、5~14日間:2ポイント、15日以上:3ポイント)

② 学内実習プログラムの内容

本学の学内実習プログラム(A群IIおよびB群)は、**少人数による「プログラム制」**を特徴としています。多くのプログラムの中から学生自身が希望のプログラムを複数選択し、単位を修得する形をとっています。

学内外の教員15人体制で、春学期・秋学期合わせて約50ものプログラムが用意されています。実践的な資料の取り扱い技術、資料写真の撮影技術、文化財の調査法、展示の実務など、さまざまな技術を学ぶことができます。

□ (参考) 学内実習プログラム (B群) の概要 ※2026年度の予定 (変更する場合があります)

区分	プログラム名	内容
視覚教育 技術実習	カメラと写真の基本	デジタル一眼レフカメラの操作方法と撮影方法の習得を主体にしつつ、35ミリ判フィルム一眼レフのカメラ技術の基本と、フィルムについての知識も得る。
調査研究 実習	野外観察会の企画と実施	自然を対象とした観察会をモデルとして、自然観察会を開催するにあたっての準備や、実際の観察会での注意事項などについて学ぶ。
	石仏調査の方法	大学周辺に点在する路傍の石仏(地藏・道祖神・庚申塔など)の現地調査を通して、集落調査や文化財の見方・調べ方、まとめと分析の方法などについて習得する。
	博物館学資料の調査と研究	博物館学関連資料群「鶴田文庫」の整理作業をとおして、博物館学資料の調査・研究方法について学ぶ。
資料収集・ 整理実習	博物館資料としての昆虫標本の 保存と整備	自然系資料の代表である昆虫標本の作製と保存について学ぶ。標本の材料は実習の中で集めるため、昆虫資料の収集方法についても学ぶこととなる。
	植物標本の採集と保存	野外に生育する維管束植物(種子植物とシダ植物)を採集してから、ハーバリウム(植物標本庫)に保存するまでの一連の作業を行い、その意義について学ぶ。
	人文資料の取り扱い	人文資料(古文書・絵図・古美術・民俗資料など)の取り扱いに対する基本姿勢と、資料の観察法、梱包や開梱の方法などについての技術を学ぶ。
	考古資料の取り扱い	考古資料の取り扱いに対する基本姿勢と、実棚、拓本、台帳作成などの基本的な技術、梱包や開梱の方法などについて学ぶ。
	博物館学資料の整理と保存	「鶴田文庫」資料の分類、カード化や保存作業など、整理と保存の実際について学ぶ。
	モノから資料へ～民俗資料から 地域の特性を読み取る～	脱穀機の一つである「千歯抜き」を取り上げ、資料の観察、関連情報の収集、他資料との比較などを通して資料化をはかり、モノ(民俗資料)から地域の特性を読み取る試みを行う。
教育普及 活動実習	「昔の暮らし」をどう伝えるか ～ひとつの資料から広がる民俗 世界～	「昔の暮らし」をテーマに、各自が資料1点を取り上げ資料解説を行う。そこに至る一連の作業を通して、民俗資料の見方・扱い方を学ぶとともに、学芸員に求められるプレゼンテーション能力とはどのようなものかを探る。
	展示解説技術(口頭)の基本	展示に関する口頭解説の技術を学ぶ。口頭での解説技術の向上を目的として、自分の興味・関心のある分野に関して、実物資料を使いながら解説練習を行う。
	「やさしい日本語」のハンズ・ オン展示づくり	だれもが楽しめるやさしい(優しい+易しい)展示について学ぶ。「やさしい」とは何かを体験し、ハンズ・オン展示をより楽しいリソースにするしかけづくりにチャレンジする。
	体験展示の環境づくり	「やさしい日本語」「ユニバーサル・ミュージアム」について学んだうえで、出張博物館の開催に必要な裏側の活動を学習しながら、学びの環境デザインについて総合的に学ぶ。
	子どもむけのワークショップづく りⅠ(まねっこ工作ワークシ ョップ企画)	実際に触れたハンズ・オン資料をまねて工作するとしたら、どのような材料や道具を使い、どのような手順で作業するかなど、工作ワークショップの企画づくりを楽しみながら学ぶ。
	子どもむけのワークショップづく りⅡ(博物館ごっこワークシ ョップ実践)	学習者が実物資料を見るだけでなく、自らの触覚を通じて能動的にその資料に関わる「触察」について学ぶ。学芸員に求められる「モノに親しみ、モノから読み取る感性」を身につける。
	天体観測とプラネタリウムの投 影	星空を対象とした観望会及びプラネタリウムの投影と星空解説にあたっての準備と実施、実際の観察会での注意事項などについて学び、実際に行う。
	映像と展示Ⅰ	講義と展示見学、作品鑑賞と考察等を通じて、映像表現の代表としての「映画」と、それをミュージアムで「展示」することについて、実態や関係性、問題点などを学修する。
	映像と展示Ⅱ	映画と写真を中心に、その展示における諸問題を考察する。また、現地に足を運んで体験的に学修する。
	展示パネルの作成(グラフィッ ク・デザインとパネル化作業)	科学イラストを例に展示パネルと解説パネルを実際に作成することを通じて、パネル制作に必要な技術を学ぶ。
展示実習	私の博物館～自分で創る自由な 展示実習～	展示企画・展示技術・展示解説等についての実習で、栄光館2階の「学芸員課程実習展示コーナー」に展示する。
	展示の実務と解説	「桜美林資料展示室」の常設展示の展示替えを実習として実施し、学芸員になる上で必要とされる、パネルの制作・資料の列品・照明演出等の展示技術の実際を学ぶとともに、自分の担当した展示コーナーについての解説の実務を行う。
バリアフ リー実習	さまざまな人が触れて楽しむ博 物館	様々な人々の知覚・認識の世界を体験し、その体験を表現する技術について学ぶ。ユニバーサル・ミュージアムを実現するための基本的な考え方についての理解を深める。
	作ってみよう みんなの展示	視覚だけに頼らないすべての感覚に訴える展示を作る。物から得られる情報のあり方・取り込み方・伝え方をマスターした上で、展示づくりと展示解説に挑戦する。

③ 「博物館実習」履修条件

博物館実習を履修するためには、以下の条件を満たしている必要があります。

【履修条件設定の目的】

「博物館実習」(3単位)では、学芸員養成教育の総仕上げとして、「学内実習」(2単位)に加え、「現場体験を通し、多様な館種の実態や学芸員の業務を解し、実践的能力を養う」ことを目的とした「館務実習」(1単位)が行われる。館務実習では、学生が博物館現場の学芸員等の指導を受けながら、資料の取扱いや利用者対応など、実務に関わる業務を経験する。従って、「博物館実習」は学生自身の学びで完結するものではなく、博物館活動や利用者(市民)との関わりの中で、研究者・技術者・教育者としての自覚を持ちつつ、外部の人々に対する責任を伴う学習活動となる。

実習生として博物館現場に派遣される学生には、このような責任を伴う実習を全うするための学力や資質が必須である。この履修条件は、その学力や資質を確認するための基準として設けられたものである。学生は、履修条件を満たすよう計画的に履修・学修を進めるとともに、充実した「博物館実習」を行うために、さらに高い目標を持って取り組むことが求められる。

【履修条件】

- (1) 博物館学芸員資格は国家資格であることを踏まえ、「博物館実習」の履修には、以下のすべての条件を実習予定の前年度までに満たしていることを基準とする。
 - ① 座学である、「博物館概論」「生涯学習概論」「博物館教育論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館経営論」8科目の必修科目の単位をすべての修得済みであること。
 - ② 上記必修科目8科目のGPAが2.00以上であること。ただし、他大学で修得した科目がある場合は、この限りではない。
- (2) 日本語を母語としない者は、「日本語能力試験(JLPT) N1」の資格または「JPT 日本語能力試験 660 点以上」のスコアを、「博物館実習」前年度の12月末までに取得済みであること。
- (3) 停学、訓告などの懲戒処分を受けた者、または法律違反などの触法的行為を行った者は原則として館務実習に派遣しない。

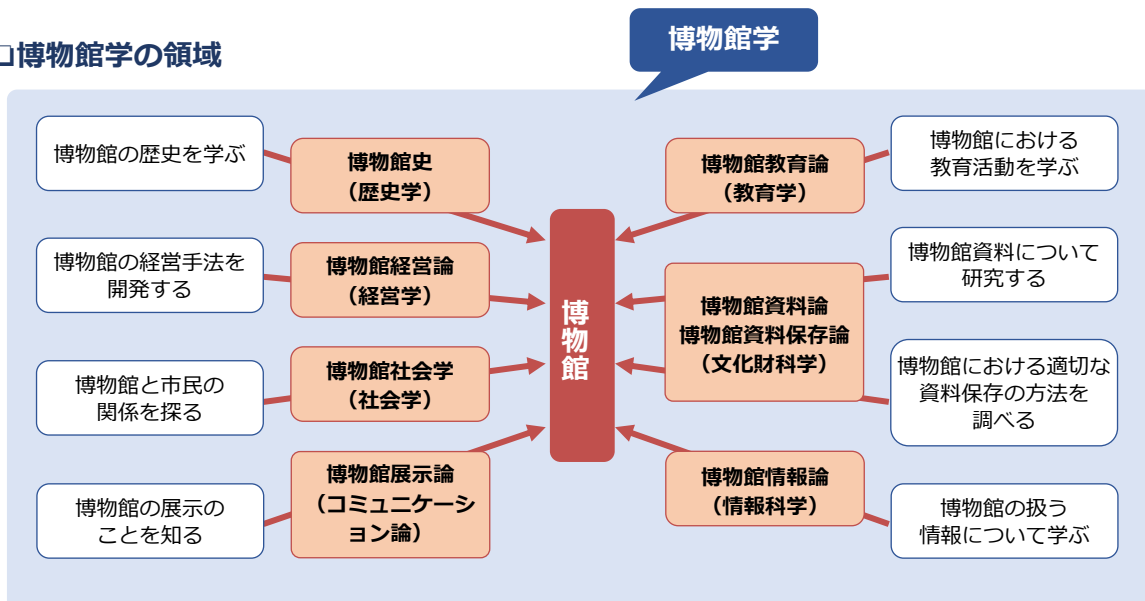
【適用年度】 2025年度入学生から

5 博物館学プログラム (リベラルアーツ学群)

① 博物館学とは

博物館学は、**博物館やその隣接領域を対象とする学際的な学問分野**です。博物館資料、教育、経営、展示技術、保存科学、情報技術から、さらには文化遺産、地域文化、まちづくりにいたるまで、幅広い領域を研究対象としています。

□ 博物館学の領域



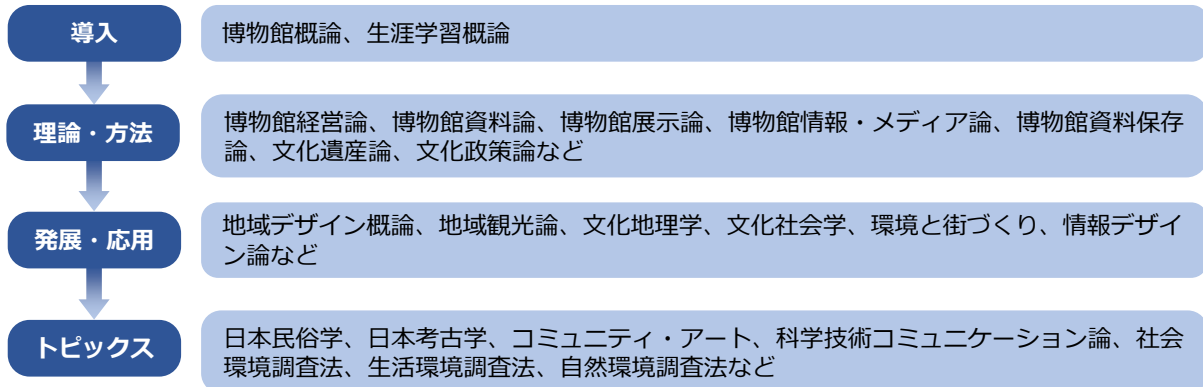
②博物館学プログラムについて

桜美林大学リベラルアーツ学群の博物館学プログラムは、**博物館を学問的に追求する**ことを目的に設定された専攻です。博物館学を専門的に学べる大学は全国に数大学しかなく、全国的にも非常にユニークな専攻です。

教育学、歴史学、メディア、コミュニケーションなど、多くの学問分野と密接に関わりながら**横断的に学んでいく**のが特徴です。まさしく「**リベラルアーツ的な学問**」を実践しているともいえます。

③カリキュラムの特徴

〈導入〉→〈理論・方法〉→〈発展・応用〉と段階を追って学びます。〈導入〉カテゴリーで博物館に関する基礎的な知識を修得した上で、〈理論・方法〉カテゴリーでは、博物館を構成する資料、展示、経営などの専門的・技術的な領域についてより深く学んでいきます。次いで〈発展・応用〉カテゴリーでは、博物館の機能や社会的役割について、他の学問領域を横断しながらより多角的に学び、応用力を培います。さらに博物館の多様な領域をカバーするため、〈トピックス〉カテゴリーで館種別の個別科学的専門性に対応したさまざまな分野の科目を履修して、実践力を養います。



④ゼミ活動

さらに博物館学について学びたい学生は、3年次の専攻演習（ゼミ）でより専門的に学ぶこともできます。博物館学プログラムには2つのゼミがあり、それぞれ個性ある活動をしています。

□浜田ゼミ（ゼミテーマ「現代社会・地域文化と博物館」）

具体的な博物館を事例としながら、博物館活動と行政・市民・地域社会とのかかわりと今後のあり方などについて検討していきます。

□金子ゼミ（ゼミテーマ「博物館／文化遺産から社会・地域を読み解く」）

博物館や文化遺産を通して社会そのものを考えます。まちづくり、世界遺産やサブカルチャーなど、多岐にわたる領域を扱っています。

6 博物館学芸員課程に関するお問い合わせ

	問い合わせ先	場所	電話番号	メール	所掌
事務	資格教職課	明々館2階	042-797-4996	gakugei@obirin.ac.jp	博物館学芸員課程全般
専任 教員	浜田弘明	崇貞館BS607	042-797-8129	h-hamada@obirin.ac.jp	博物館学芸員課程主任
	金子 淳	崇貞館BS426	042-797-9392	a-kaneko@obirin.ac.jp	博物館学プログラム主任